



コンビニエンスストア業界 における地球温暖化対策の取組み

～ カーボンニュートラル行動計画 2021年度実績報告 ～

一般社団法人

日本フランチャイズチェーン協会（JFA）

2023 / 2 / 1

0. 昨年度審議会での評価・指摘事項

1. (一社)日本フランチャイズチェーン協会の概要

2. コンビニエンスストア業界の概要

3. JFA環境委員会

4. JFA環境基本方針(2021年3月策定)

5. コンビニエンスストア業界の「カーボンニュートラル行動計画」フェーズⅡ

6. 2021年度の実績

7. BAT、ベストプラクティスの導入推進状況

8. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献

9. 革新的技術の開発・導入

10. その他の取組み

11. 参考資料

0. 昨年度審議会での評価・指摘事項

■昨年度フォローアップWGにおける進捗評価

| 主なコメント・指摘事項 | 指摘を踏まえた今年度の改善・追加等 |
|--|---|
| <p>目標には含まれていないと思うが、CO₂冷凍機の導入によるFガス排出量削減量も大きいと思う。削減量の試算結果等、本資料のどこかでPRされてはいかがか。</p> | <p>調査結果の14ページに掲載。</p> |
| <p>目標設定が店舗当たりに変更されたが、今後サービス形態の変化（営業時間の見直し等）による排出削減は想定されているか。</p> | <p>各社とも営業時間の見直しについては、加盟店と本部の個別協議にて進めている。その際に、電気使用量削減によるCO₂排出量の減少は想定していない。</p> |
| <p>削減見込み量がエネルギーベースでの値となっているが、野心的なCO₂目標の達成に向けて、調達電力の低炭素化の重要度が高まったと思う。本目標を達成するための、系統電力の低炭素化の想定及び、RE100等の調達に向けた取組みの見直しについてはいかがか。</p> | <p>* S E J 太陽光発電パネルの大容量とオフサイト P P Aの電力調達を継続。</p> <p>* F M 電気の調達は加盟店の店舗運営に関わるため、これまで大手電力会社からの安定的調達を前提としており、電気使用量削減対策としては、省エネ機器の導入、太陽光発電設備の設置を進めている。今後はご指摘の通り、調達電力の低炭素化も視野に入れて検討すべきと考える。</p> <p>* L A W ・ オフサイト P P Aの導入 ・ R E 100の採用</p> |

0. 昨年度審議会での評価・指摘事項

| 主なコメント・指摘事項 | 指摘を踏まえた今年度の改善・追加等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---------------------------|----|---------------------------|---------------|----------|-----|---------------|-----------------|---------|----------------------|------------------------------|---------|-----------------------------|------|-----------------------|-------|----------------------|-------|--------------------------|------|--------------------|-----|--------------|-----|----------------------|------|------|--|---------|
| <p>Scope3の算定について</p> | <p>* S E J S B Tの指針に合わせ、各お取引先様に改めてご協力依頼の下、Scope3の算定に取り組んでいる。</p> <p>* F M Scope3については、2017年度実績から算出し、サステナビリティレポート、Webページにて公表している。 今後も引き続き公表していく。</p> <p>* L A W</p> <table border="1" data-bbox="1025 489 1634 803"> <thead> <tr> <th>カテゴリ</th> <th>内容</th> <th>排出量(千t-CO₂e)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Scope1 (直接排出)</td> <td>社用車のガソリン</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>Scope2 (間接排出)</td> <td>本社・エリア・支店・店舗の電力</td> <td>1,027.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">Scope3 (その他の間接排出)</td> <td>カテゴリ1 仕入れた原材料(FB・NB製品、レジ袋など)</td> <td>4,010.5</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ2 建物、器具備品等、情報システムハードウェア</td> <td>88.2</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ3 電力の調達に伴うエネルギー関連</td> <td>146.9</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ4 配送センターのエネルギー消費</td> <td>139.2</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ5 店内燃費物、廃店・改装時の作業燃費物</td> <td>20.9</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ6 ローソン本部従業員の出張</td> <td>0.8</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ7 従業員の出張</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>カテゴリ12 容器・製り器、レジ袋の廃棄</td> <td>22.7</td> </tr> <tr> <td>上記合計</td> <td></td> <td>5,462.3</td> </tr> </tbody> </table> | カテゴリ | 内容 | 排出量(千t-CO ₂ e) | Scope1 (直接排出) | 社用車のガソリン | 4.2 | Scope2 (間接排出) | 本社・エリア・支店・店舗の電力 | 1,027.5 | Scope3 (その他の間接排出) | カテゴリ1 仕入れた原材料(FB・NB製品、レジ袋など) | 4,010.5 | カテゴリ2 建物、器具備品等、情報システムハードウェア | 88.2 | カテゴリ3 電力の調達に伴うエネルギー関連 | 146.9 | カテゴリ4 配送センターのエネルギー消費 | 139.2 | カテゴリ5 店内燃費物、廃店・改装時の作業燃費物 | 20.9 | カテゴリ6 ローソン本部従業員の出張 | 0.8 | カテゴリ7 従業員の出張 | 1.5 | カテゴリ12 容器・製り器、レジ袋の廃棄 | 22.7 | 上記合計 | | 5,462.3 |
| カテゴリ | 内容 | 排出量(千t-CO ₂ e) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Scope1 (直接排出) | 社用車のガソリン | 4.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Scope2 (間接排出) | 本社・エリア・支店・店舗の電力 | 1,027.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| Scope3 (その他の間接排出) | カテゴリ1 仕入れた原材料(FB・NB製品、レジ袋など) | 4,010.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カテゴリ2 建物、器具備品等、情報システムハードウェア | 88.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カテゴリ3 電力の調達に伴うエネルギー関連 | 146.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カテゴリ4 配送センターのエネルギー消費 | 139.2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カテゴリ5 店内燃費物、廃店・改装時の作業燃費物 | 20.9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カテゴリ6 ローソン本部従業員の出張 | 0.8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | カテゴリ7 従業員の出張 | 1.5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カテゴリ12 容器・製り器、レジ袋の廃棄 | 22.7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 上記合計 | | 5,462.3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>運輸部門は外部委託がほとんどのことだが、共同配送等、具体的な取組事例が積みあがっているかと思う。引き続き、取引先と連携した取組み等のご紹介と、可能であれば目標設定も検討いただきたい。</p> | <p>調査結果の30ページにCVS3社による「共同物流の取組み」を掲載。また、目標設定については、調査結果の27ページに掲載の通り、難しいことからデータの把握や取引先等と連携した取組み等について把握を行う。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

1. (一社)日本フランチャイズチェーン協会の概要

- **設立** : 1972年〔当時の通産大臣(現在の経産大臣)から認可を受けた社団法人〕
- **目的** : フランチャイズ・システムの健全な発展を図る
- **活動** : 調査研究、規範策定、普及啓発(広報活動)、指導・相談(FC相談)、社会貢献(防犯・防災対策、環境対策)、会員交流、国際業務等
- **構成** : フランチャイザー及びフランチャイズ・ビジネスに関心を持ち当協会の趣旨に賛同する企業

| 業 種 | 代表的な業種 |
|-------|------------------------|
| 外 食 業 | ファストフード、居酒屋、コーヒーショップ等 |
| 小 売 業 | コンビニエンスストア、自動車関連、洋菓子等 |
| サービス業 | レジャーサービス、リース・レンタルサービス等 |

- **役員** : 会長(1名)、副会長(3名)、専務理事(1名)、常任理事(7名)、理事(14名)
理事総数 26名
- **会員数** : 正会員 100社、準会員 18社、研究会員 106社、賛助会員 266社

計490社(2023年1月)

2. コンビニエンスストア業界の概要

■主な事業

飲食料品等を中心とした最寄品を扱うフランチャイズ形態の小規模小売業。コピー、FAXサービス、宅配便の受付やATM設置等のサービス分野が拡大。また、立地や営業時間帯等にて利便性を提供。

■業界全体に占めるカバー率

【出典：2021年度JFAフランチャイズチェーン統計調査】

| 項目 | 業界全体の規模 | JFA会員の規模 |
|-------|------------|--------------------------|
| チェーン数 | 16チェーン | 16チェーン (100.0%)※1 |
| 店舗数 | 57,544店舗 | 57,544店舗 (100.0%)※2 |
| 売上高 | 11兆1,095億円 | 11兆1,095億円 (100.0%)※3 |

※1. (%)は業界全体のチェーン数に占めるJFA会員のチェーン数の割合。

※2. (%)は業界全体の店舗数に占めるJFA会員の店舗数の割合。

※3. (%)は業界全体の売上高に占めるJFA会員の売上高の割合。

《主なチェーン》



あなたも、コンビニ、














3. JFA環境委員会

非競争分野は連携して取組むとの協会重点方針に基づき、環境委員会全体として環境対策の取組みを進めるために、新たに「環境基本方針(P7参照)」を策定(2021年3月)し、同基本方針に基づき取組みを進めている。

【委員構成】

| 会社名 | 会社名 |
|-----------------------|--------------------------------|
| (株)壱番屋 | B-Rサーティワンアイスクリーム(株) |
| (株)オートバックスセブン | (株)ファミリーマート(FM) |
| (株)ストロベリーコーンズ | (株)不二家 |
| (株)セイコーマート(SM) | (株)ペッパーフードサービス |
| (株)セブン-イレブン・ジャパン(SEJ) | ミニストップ(株)(MS) |
| (株)ダスキン | (株)モスフードサービス |
| タリーズコーヒージャパン(株) | 山崎製パン(株) デイリーヤマザキ事業統括本部(DY) |
| (株)ドトールコーヒー | (株)吉野家ホールディングス |
| 日本ケンタッキー・フライド・チキン(株) | (株)ローソン(LAW) |
| 日本マクドナルド(株) | |

4. JFA環境基本方針(2021年3月策定)

| 項目 | SDGs目標 | 目標達成のための主な取組み |
|-------------------|--|--|
| エネルギー対策 |   【参考】CVSの目標値 1店舗当たりのCO ₂ 排出量を2013年度より46%削減 | <ol style="list-style-type: none"> 店舗での取組み 省エネ機器の導入、機器等のメンテナンスを実施(フィルター清掃等)、店内温度管理の徹底 本社・オフィスの取組み 室温管理の徹底 物流の取組み 環境配慮型車両の導入、アイドリングストップ運動の実施、定期的に配送コースを見直し、車両台数を削減、 サプライチェーン排出量把握の検討 |
| プラスチック対策 |   【参考】CVSの目標値 2030年度までに、レジ袋辞退率60%以上を目指す | <ol style="list-style-type: none"> レジ袋削減の取組み レジ袋有料化を実施、バイオマス配合率25%以上のレジ袋を使用、マイバッグ使用を推進、お客様への声掛け、適正サイズのレジ袋使用を徹底 プラスチック製容器包装類 <ol style="list-style-type: none"> 削減の取組み お客様への声掛けを実施、小型化・軽量化・薄肉化、環境配慮型素材を使用 リユース・リサイクルの取組み プラスチック製品のリサイクル、リユース食器・容器の使用 |
| 食品廃棄物対策 |   | <ol style="list-style-type: none"> 食品ロス削減の取組み 受発注の精度向上、フードバンク等への寄贈、季節商品の予約販売(CVS)、納品期限の緩和(CVS)、容器包装の工夫や温度管理による長鮮度商品の開発(CVS)、メニューを小型化(外食チェーン) 食品リサイクルの取組み 期限切れ商品等の肥料化・飼料化・熱回収等を実施、廃食用油リサイクル |
| 持続可能な商品調達 |     | <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な原材料の調達や認証制度等について検討・研究 |
| その他 (消費者等への啓発) |  | <ol style="list-style-type: none"> 効果的な啓発方法の検討 環境課題について勉強会・説明会等を実施 |

■ 2030年度目標 2021年9月策定

- (1) 目標指標・基準年度：1店舗当たりのCO₂排出量・2013年度
- (2) 目標数値：1店舗当たりのCO₂排出量を基準年度比(2013年度)より46.0%削減し、48.81 t-CO₂とする

■ 従前の目標との差異

売上高当たりのエネルギー消費量から1店舗当たりのCO₂排出量に目標指標を変更

■ 目標策定の背景

2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、国が2030年目標の見直しを行ったことから、CO₂排出量での目標指標の策定について検討を行ったが、コンビニエンスストアの場合、毎年店舗数が増えていることからCO₂排出量も増えていく可能性がある。業界として、真摯に省エネ対策に取り組むとともに、事業の発展と環境負荷低減の両立を目指し、「1店舗当たりのCO₂排出量」を目標指標として、2013年度比にて46.0%の削減に取り組むこととした。

■ 前提条件

コンビニエンスストアの場合、エネルギー消費量のほとんどが電力会社等から店舗へ供給される電気の使用であるため、店舗における電気使用量のみを対象としている。

■ 目標水準設定の理由とその妥当性

これまで、コンビニエンスストア業界の省エネの取組みが評価される事業活動と最も密接な関係のある指標として、営業時間を反映した「売上高」を目標指標として採用していたが、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、国の目標に合わせた目標設定とするため2021年度実績より目標の変更を行った。

■ 2021年度実績値

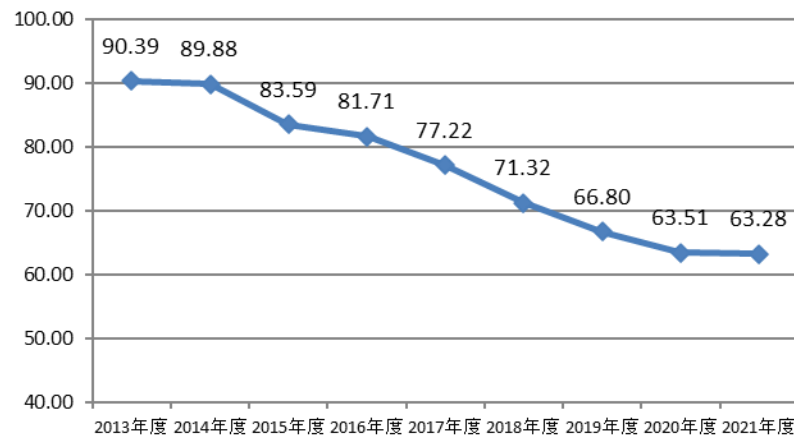
| 項目 | 実績値 (2021年度) | 基準年度比 (2013年度) | 前年度比 (2020年度) |
|---|-----------------|-------------------|------------------|
| 生産活動量(店舗数) | 56,448 | 115.9% | 100.2% |
| エネルギー消費量(千kWh) | 8,192,080.7 | 106.1% | 100.5% |
| エネルギー原単位(千kWh/百万円) | 0.7649 | 91.2% | 99.6% |
| CO ₂ 原単位(t-CO ₂ /店舗数) 〔1店舗当たりのCO ₂ 排出量〕 | 63.28 | 70.0% | 99.6% |
| CO ₂ 排出量(t-CO ₂) | 357.17 | 81.1% | 99.8% |

■ 進捗状況

2030年度目標(46.0%削減)に対して、2021年度実績は30.0%削減。

■ 考察

電力原単位(排出係数)の改善や各社とも「持続可能な成長」を目指し、LED照明やCO₂冷蔵・冷凍機等の省エネ機器や、太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入を積極的に進めていることから、「1店舗当たりのCO₂排出量」は改善が進んでいる。しかし、前年度(2020年度)と比較するとほぼ同水準であることから、引き続き、目標達成に向け取組みを進めていく。



■ 目標達成に向けた見通しの根拠・前提

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、国の目標に合わせた目標設定とするため2021年度実績より2030年度において「1店舗当たりのCO₂排出量」を基準年度（2013年度）より46.0%の削減に努めることに目標の変更を行った。

エネルギー消費量については、今後もLED照明や、CO₂冷蔵・冷凍機、太陽光発電装置等を積極的に導入することにより省エネを進めていこうと考えているが、温度管理等を進めている中、エネルギー使用量の増加も見込まれる。今後の更なる削減には、今までにはない「新しい技術」や、「新しい機器等の開発」が必要不可欠であり、自主的な取組みだけによる大幅な改善は困難な状況にあると考えている。

7. BAT、ベストプラクティスの導入推進状況

■BAT、ベストプラクティスの導入進捗状況(2022年2月末現在)

| BAT・ベストプラクティス等 | 2021年度 | 参 考 資 料 | |
|-----------------|-------------|-------------|-------------|
| | | 2020年度 | 2019年度 |
| 太陽光発電装置 | 5社 13,620店舗 | 6社 13,457店舗 | 6社 13,024店舗 |
| 非化石エネルギー | 1社 67店舗 | 1社 10店舗 | — |
| LED照明〔看板〕 | 7社 51,271店舗 | 7社 47,174店舗 | 7社 42,806店舗 |
| LED照明〔店内(売場)〕 | 7社 54,075店舗 | 7社 49,042店舗 | 8社 48,554店舗 |
| LED照明〔店内(トイレ等)〕 | 4社 8,857店舗 | 5社 9,723店舗 | 5社 6,041店舗 |

8. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献

■ 低炭素製品・サービス等の概要、削減見込量及び算定根拠(個社の取組み)

| 低炭素製品・サービス等 | 削減実績 (2021年度) | 削減見込量 (2030年度) |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 【LAW】 | | |
| CO ₂ オフセット運動 | 119 t-CO ₂ | 200 t-CO ₂ |

■ 2021年度 of 取組実績

| 会社名 | 取組みの具体的事例 |
|-----|---|
| 全社 | 2020年7月よりバイオマス素材配合率30%のレジ袋への切り替え、有料化等を実施。 (2022年度レジ袋辞退率:73.8%) ※「レジ袋有料化実施に伴うJFA統一方針(ガイドライン)」を策定 (JFAホームページURL: https://www.jfa-fc.or.jp/particle/3003.html) |
| SEJ | * 具体的事例 ・店舗及び一部工場・店舗への太陽光発電パネルの設置を促進とオフサイトPPAによる電力調達。 ・加盟店では省エネリーダーを選任し、節電を中心とした省エネ対策を実施。 |
| FM | * 具体的事例 電気使用量削減のため、照明のLED化、CO ₂ 冷媒冷凍機の導入を進めるとともに、太陽光発電設備の設置を進めた。 |
| LAW | * 具体的事例 「CO ₂ オフセット運動」を展開。Loppi端末での1t販売やカードポイントの利用にてCO ₂ 排出権が購入出来るサービス。 * 取組実績の考察 旅行会社とのコラボ企画が中断(コロナ禍のため)。 |

8. 低炭素製品・サービス等による他部門での貢献

■ 2022年度以降の取組予定

| 会社名 | 取組予定 |
|-----|---|
| SEJ | 省エネ・再エネ・創エネの各取組みを継続実施 |
| F M | 今後も省エネ機器の導入、太陽光発電設備の設置を進め、店舗電気使用量の削減に努める。 |
| LAW | 「CO ₂ オフセット運動」を継続実施。 |

■ 2030年に向けた取組み

| 会社名 | 取組予定 |
|-----|--|
| SEJ | 店舗運営に伴うCO ₂ 排出量を2013年度比にて50%削減。 自社の排出量(スコープ1+2)のみならず、スコープ3を含めたサプライチェーン全体で削減を目指す。 |
| F M | 店舗運営に伴うCO ₂ 排出量(1店舗当たり)を2030年までに2013年度対比50%削減をめざす。取組内容として、省エネ型機器の導入により、店舗の電気使用量を抑制し、CO ₂ 排出の削減を進める。加えて、仕入から配送、販売、廃棄時サプライチェーン全体の排出量を算出、削減に向けた取組みを進める。 |

■ 2050年カーボンニュートラルの実績・トランジションの推進に向けた取組み

| 会社名 | 取組みの具体的事例 |
|-----|--|
| SEJ | 店舗運営に伴うCO ₂ 排出量実質ゼロ(2013年度比)。 |
| F M | 店舗運営に伴うCO ₂ 排出量(1店舗当たり)を2050年までに2013年度対比100%削減をめざす。 |

■次世代型店舗の研究・開発

| 内 容 | 代表的な店舗 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①高効率太陽光発電システム ②路面型太陽光パネル ③カーポート／屋上太陽光パネル ④風力／太陽光発電付サインポール ⑤大容量リチウムイオン蓄電システム ⑥純水素燃料電池の発電利用 ⑦リユースバッテリー蓄電 ⑧高効率発電／蓄電システム ⑨自動調光機能付き店頭看板 ⑩CO₂冷媒を使用した冷凍・冷蔵設備 ⑪店内正圧化空調換気プラン(空調コントローラー) ⑫複層ガラス | <p>SEJ 千代田二番町店</p> <p>SEJ 相模原橋本台 1丁目店</p> <p>SEJ 青梅新町店</p> <p>SEJ 大和下鶴間店</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ①空調縮退運転管理による省エネ ②省エネ型LED照明 ③CLT(Cross Laminated Timber) 躯体 ④CO₂冷凍機による省エネ ⑤再生エネルギー対応(ソーラーパネル) ⑥風力・太陽光発電街灯 | <p>FM 沼田インター店</p> |

9. 革新的技術の開発・導入

| 内 容 | 代表的な店舗 |
|---|-------------------------------|
| <p>・「リチウムイオン蓄電池」導入店舗</p> | <p>MS 那須塩原唐杉店</p> |
| <p>①フロンを排出せず省エネルギー効果も高い「ノンフロン冷凍・冷蔵システム」を、ローソンで初めて店内で使用するすべての冷蔵庫・冷凍庫等（要冷機器）に導入</p> <p>②「ノンフロン冷凍・冷蔵システム」に加えて、「蓄電池」や「LED照明」「空調機」「EV（電気自動車）専用充放電器」をIoT化し、遠隔制御することで、エネルギーマネジメントの実現・エネルギー利用を最適化</p> | <p>LAW ローソン慶應義塾大学SFC店</p> |

■業務部門における取組み

(1) 本社等オフィスにおける排出削減目標

本社等オフィスは、各社により立地や規模等が異なることから、協会統一の目標設定を行うことは困難であることから、各社にて目標設定を行うべく進めていく。

なお、各社の目標設定は以下の通り。

| 項目 | 取組内容(個社の取組み) |
|-------|--|
| F M | <ul style="list-style-type: none"> ①2022年8月サマータイム実施(始業時間と終業時間を1時間繰り上げ) ②節電チェックリスト(OA機器、照明、空調、その他)にもとづく対策 ③各執務室フロアにおける消灯エリアの設定 |
| L A W | <ul style="list-style-type: none"> ①本社・事務所:クールビズ、定時退社・消灯のアナウンス、コピー枚数削減等。 ②店舗:省エネ10か条の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・エアコン設定26~28°C運用 ・消灯(スイッチOFF)の励行 等 |

■運輸部門における取組み

(1) 運輸部門における排出削減目標

各社とも配送業務については外部に委託等を行っているため、指示・命令等を行うことは難しいことから、削減目標の設定等を強制することはできない。引き続き、データの把握を行うとともに取引先と連携した取組み等を実施していきたいと考えている。

なお、各社の目標設定は以下の通り。

| 項目 | 取組内容(個社の取組み) |
|-------|--|
| S E J | <p>【削減目標:2022年1月策定(毎年12月に見直しを行い、1月に社内承認)】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 2022年度についても引き続き、環境にやさしい車両(ポストポスト新長期規制適合車)の導入を促進。 * ハイブリッド、電気、天然ガス、バイオディーゼルの4車型に加え、燃料電池配送車の実証も継続。 <p>※対象事業領域:セブン-イレブン店舗配送に関わる配送車両(たばこ・雑誌・新聞等の専用車を除く)</p> |
| F M | <p>【削減目標:2022年5月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 配送中における1店舗当たりCO₂排出量の削減(前年比:99.3%)。 <p>※対象事業領域:専用センターからの商品配送</p> |
| M S | <p>【削減目標:2020年3月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> * CO₂を2019年度比98%とする。 <p>※対象事業領域:定温センター13カ所・常温センター6ヶ所</p> |

■運輸部門における取組み

| 項目 | 取組内容(個社の取組み) |
|-------|--|
| D Y | <p>【削減目標:2022年7月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 前年の配送量を下回る努力をする。 山崎製パンとの共配を進め、配送を山崎製パンに移管する。 <p>※対象事業領域:チルド・ドライ・フローズンの委託配送のみ (山崎製パンとの共配を開始したエリアを除く)</p> |
| L A W | <p>【削減目標:2021年3月策定】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 配送車両の1店舗当たりのCO₂排出量を2007年度対比で24%削減。 * 配送車両のCO₂排出量(2021年度実績)を2012年度比で10%削減 <p>※対象事業領域:配送センター(CDC・DDC・FDC)</p> |

10. その他の取組み

(2) 準荷主としての取組み

各社では準荷主ガイドラインに基づいた以下の取組みを実施・検討中である。

| 項 目 | 実 施 状 況 | | |
|-----------------------------|--------------------|-----------------------------------|-----|
| | A 社 | B 社 | C 社 |
| リードタイムの見直し | 社内にて検討中 | 最適な配送ルートを組むことにより、随時リードタイムの見直しを実施。 | 実施中 |
| 発注頻度・発注ロットの見直し及び発注量の平準化・最適化 | 発注量に応じた発注頻度の見直しを実施 | — | 実施中 |
| 大型輸送機器の受入れ体制の確保 | — | — | 実施中 |
| 計画的荷積み・荷下しの推進 | — | 随時、計画的な荷積み、荷卸しの体制を推進し、効率化を図っている。 | 実施中 |
| ユニットロードシステムの推進 | — | — | 実施中 |
| 関連インフラの整備 | 共配を推進 | — | 実施中 |

10. その他の取組み

(3) 配送車両によるCO₂排出量等(データの把握が可能な6社にて集計)

| | 配送センター数 | 温度帯別配送システム | 車両台数 | 1店舗当たりの年間数値 | | | |
|----|---------|------------|-------|-------------|-----------|----------|---|
| | | | | 走行距離数(km) | 燃料使用量(kℓ) | 燃費(km/ℓ) | CO ₂ 排出量(t-CO ₂) |
| 軽油 | 506 | フローズン | 2,054 | 17,036.2 | 2,777 | 6.1 | 7.16 |
| | | 常温 | 5,293 | | | | |
| | | チルド(米飯共配) | 8,093 | | | | |

※上記CO₂排出量は、配送センターから各店舗間の配送車両における燃料使用量から算出。

※配送車両におけるカバー率: 88.3%(たばこ・雑誌・新聞等の専用車を除く)。

※算出に当たり、環境省・経済産業省『温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル』の「CO₂排出係数(軽油: 2.58t-CO₂/kℓ)」を使用。

(4) 年度別推移

| 年 度 | 1店舗当たりの年間数値 | |
|--------|-------------|---|
| | 走行距離数(km) | CO ₂ 排出量(t-CO ₂) |
| 2012年度 | 18,373.3 | 7.49 |
| 2013年度 | 18,125.4 | 7.40 |
| 2014年度 | 18,505.5 | 7.59 |
| 2015年度 | 18,145.8 | 7.51 |
| 2016年度 | 16,233.1 | 6.71 |
| 2017年度 | 17,982.3 | 7.55 |
| 2018年度 | 17,813.8 | 7.58 |
| 2019年度 | 17,522.2 | 7.01 |
| 2020年度 | 17,189.4 | 7.21 |
| 2021年度 | 17,036.2 | 7.16 |

■情報発信(国内)

(1) 業界団体の取組み

| 取組内容 | 業界内限定 | 一般公開 |
|--|-------|------|
| JFAホームページにて取組内容を公開 ※URL: https://www.jfa-fc.or.jp/particle/496.html | | ● |
| 環境省「COOL CHOICE」に参加 | | ● |
| 環境省「クールビズ」、「ウォームビズ」を実施 | | ● |
| 環境省「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動(官民連携協議会)」へ参画 | | ● |
| 「レジ袋有料化実施に伴うJFA統一方針(ガイドライン)」を策定 ※URL: https://www.jfa-fc.or.jp/particle/3003.html | | ● |
| 「JFA環境基本方針」を策定(P6、P7参照) (エネルギー対策、プラスチック対策、食品廃棄物対策、持続可能な商品調達等の取組み等) | | ● |
| JFA「節電対策の取組み」を実施(P23～P25) ※URL: https://www.jfa-fc.or.jp/particle/3875.html | | ● |

■情報発信(国内)

(2) 個社の取組み

| 取組内容 | 企業内部 | 一般向け |
|--|------|------|
| 【SEJ】 | | |
| ホームページの公開、CSRの冊子を配布 | ● | ● |
| 【F M】 | | |
| サステナビリティレポート発行、ホームページにてSDGs活動の情報を発信 | ● | ● |
| 【LAW】 | | |
| ホームページ、統合報告書、SDGsハンドブック、社内報等にて取組みを社内外に告知 | ● | ● |

■節電対策の取組み(冬季の取組み)

(1) 業界団体の取組み(取組みの一例)

| 照明関係 | 空調、冷凍・冷蔵ケース関係 |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> * 店頭看板照明の消灯 (電力需給ひっ迫注意報・警報発令時等、防犯面を考慮して実施) * 店内・客席照明の消灯 (天井照明、事務所・バックルーム、トイレ等は使用时以外に消灯) * 店内・客席照明の照度調整 * LED照明(看板・店内照明、客席照明)の導入 * 太陽光発電装置等の自然エネルギーの導入 等 | <ul style="list-style-type: none"> * 店内を適正温度に設定 * 空調機器、冷凍・冷蔵ケース等のフィルターの清掃 |

※機器等の運用管理の実施及び省エネ機器の導入状況は、各社・各店舗により異なる。

(2) 個社の取組み

| 会社名 | 照明関係 | 空調、冷凍・冷蔵ケース関係 |
|------|--|--|
| S M | * 天井照明、ショーケース等の全ての照明のLED化を推進 | * 冷機のフィルター清掃を徹底することで、エアコン効率を引き上げ、エアコンの設定温度を冬期間は原則20℃に設定 |
| S EJ | * 店内照明は、ほぼLEDを使用 間引き効果は限定的であるが、配灯面で実施可能店にて実施 ※店舗判断にて実施 | * 冬季(日中等の)空調機の設定温度見直し + 一時的な空調STOPを検討 → 売り場温度低下による、商品への影響(商品管理上の温度帯まで)を考慮し対応 * 週1回のフィルター清掃の継続 * スマートセンサー(電気の見える化)による使用状況の継続的確認 ・冷蔵設備の正しい使用、使用状況を確認 * ホットドリンクケースの使用の見直し(ホット専用ドリンクの保管時、他ソフトドリンクと一緒に冷蔵保管室へ入れない) × 冷えた状態→温め、○常温→温め |

11. 参考資料

| 会社名 | 照明関係 | 空調、冷凍・冷蔵ケース関係 |
|-----|--|--|
| F M | * 天井照明60%ダウン | * 空調の温度設定は冬場20℃に設定 |
| P O | * LED照明の推進 | * 細かい温度管理 |
| M S | * 未使用時及び不使用場所の消灯 | * 節電マニュアルに従った空調温度設定(20℃) * フィルター等の定期的な清掃の実施 * 扉開閉確認 |
| D Y | * LED照明の設置 (看板・店内・パン棚等) * 店内照明の点灯は継続 | * 冬期は店内温度を19℃にて管理 * 空調機器及び冷凍・冷蔵ケース等のフィルター清掃を実施 |
| LAW | * 夜間、電力需給ひっ迫警報が発令された場合 ・ラインサイン消灯 ・ポールサイン消灯 | * 要冷機器の照明消灯 * 省エネ10か条の再徹底 [特に、フィルター清掃・エアコン温度設定(冬季18℃)] |

■「太陽光発電装置」、「LED照明」の導入状況(2022年2月末現在)

| 項 目 | 太陽光発電装置 | 非化石 エネルギー | L E D 照 明 | | |
|-------|-------------|--------------|-------------|-------------|------------|
| | | | 看 板 | 店内(売場) | 店内(トイレ等) |
| 導入店舗数 | 5社 13,620店舗 | 1社67店舗 | 7社 51,271店舗 | 7社 54,075店舗 | 4社 8,857店舗 |



太陽光発電パネルの設置店舗

■「CO₂冷蔵・冷凍等」の導入状況

| 項目 | 2022年2月末現在 |
|-------|------------|
| 導入店舗数 | 5社 5,462店舗 |



CO₂冷媒の室外機

■「環境配慮型配送車両」の導入状況

| 項目 | 2022年2月末現在 |
|------------------------|------------|
| ハイブリッド配送車 | 3社 1,163台 |
| 天然ガス配送車 | 4社 9台 |
| その他 (電気自動車、ディーゼル車等) | 6社 4,173台 |



環境配慮型配送車両

■「充電スタンド」の設置状況(2022年2月末現在)

| 項目 | 急速充電 | 普通充電 |
|------|------|------|
| 設置基数 | 974基 | 2基 |



充電スタンド

11. 参考資料

■各社ではホームページにて「環境対策の取組み」を掲載



(株)セイコーマート



(株)セブン - イレブン・ジャパン



(株)ファミリーマート



(株)ポプラ



ミニストップ(株)



山崎製パン(株)
デイリーヤマザキ事業統括本部



(株)ローソン



(一社)日本フランチャイズチェーン協会